

2019年9月9日
日本郵便株式会社

特殊切手「伝統色シリーズ 第3集」の発行

日本郵便株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長 横山 邦男）は、日本人が四季折々の日常生活の中で継承してきた日本の伝統色を題材とした、特殊切手「伝統色シリーズ 第3集」を発行します。

なお、本シリーズは四季をテーマに発行しており、第3集では「冬」をメインテーマとしています。

1 発行する郵便切手の内容

名 称	伝統色シリーズ 第3集	
発 行 日	2019年11月6日（水）	
種 類	63円郵便切手（シール式）	84円郵便切手（シール式）
切手画像	別紙のとおり	
シ ー ト 構 成 ・ 意 匠		
	(1) 深緋 <small>こきひ</small> (2) 鉄黒 <small>てつぐろ</small> (3) 鮭色 <small>さけ</small> (4) 常盤色 <small>ときわ</small> (5) 橙 色 <small>だいだい</small> (6) 鳥の子色 <small>とり こ</small> (7) 紅海老茶 <small>べにえびちや</small> (8) 銀鼠 <small>ぎんねず</small> (9) 丹色 <small>に</small> (10) 雀茶 <small>すずめちや</small>	(1) 紅梅色 <small>こうばい</small> (2) 消炭色 <small>けしずみ</small> (3) 人蔘色 <small>にんじん</small> (4) 雪白 <small>せつぱく</small> (5) 小豆色 <small>あずき</small> (6) 煤竹色 <small>すすたけ</small> (7) 白群 <small>びやくぐん</small> (8) 松葉色 <small>まつば</small> (9) 朱色 <small>しゆ</small> (10) 濃卵 <small>こいたまご</small>
売 価	630円（シート単位で販売します。）	840円（シート単位で販売します。）
小切寸法	縦25.5mm×横21.5mm	
印面寸法	縦22.5mm×横18.5mm	
シート寸法	縦67.5mm×横187.0mm	
助言・監修	一般財団法人 日本色彩研究所	
切手デザイン	星山 理佳（切手デザイナー）	
版式刷色	オフセット6色	
発行枚数	1,500万枚（150万シート）	3,000万枚（300万シート）
販売場所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国の郵便局など ・ 「郵便局のネットショップ」^{（注）} ・ 銀座郵便局での郵便振替による通信販売 	

2 発行する郵便切手のデザインについて

<63円シート>

- (1) 深緋^{こきひ}
茜^{あかね}で染めた後に紫根^{しこん}（ムラサキソウの根）をかけ合わせた、紫みを帯びた暗い赤です。平安時代における朝廷の決まり事を記した『延喜式』には、紫に次ぐ高位の色と記されています。
- (2) 鉄黒^{てつぐろ}
鉄が酸化されてできる黒い酸化被膜に由来する色名です。この皮膜には錆を防ぐ効果があり、また美観を高める目的でも金属の表面処理に用いられます。
- (3) 鮭色^{さけ}
色名サーモンピンクの日本語訳です。鮭の切り身の色に由来する色名であり、ピンクの中でもオレンジみを帯びたピンクです。
- (4) 常盤色^{ときわ}
常緑樹の松や杉の葉のような濃い緑色です。一年中、葉を落とすことがないことから、永遠不滅の象徴として縁起のいい色とされています。
- (5) 橙^{だいだい}色
ミカン科の橙の熟した色です。果実は冬に熟しますが木から落ちず、2～3年は枝についています。そこで「代々栄える」という縁起担ぎにより、鏡餅などの正月飾りに添えられます。
- (6) 鳥の子^{とりこ}色
鳥の子といっても、雛の色ではなく卵の殻の色に由来する色です。ごく淡い黄褐色や茶色みがかかった白にあたります。一方「卵色」は卵の黄身の色に由来し、やや赤みを帯びた黄色です。
- (7) 紅海老茶^{べにえびちゃ}
紅色と海老茶を組み合わせでできた、暗い赤茶色を示す色名です。
なお、エビカズラに由来する「葡萄色（えびいろ）」と伊勢海老の色による「海老色」は別の色名ですが、色も近く混同されて使われています。
- (8) 銀鼠^{ぎんねず}
明るい銀のような鼠色のこと。グレイの中で最も明るいのは白鼠で、その次が銀鼠でした。
さらに暗くなると、薄鼠、素鼠、濃鼠^{こねず}、井鼠^{どぶねず}、消炭鼠などと呼ばれました。
- (9) 丹^に色
「丹」は赤土や赤い顔料のことを指す言葉です。赤土の粘土は人類最古の赤い顔料で、赤褐色を表すこの色名も長い歴史を持ちます。なお、丹頂鶴の名は頭頂が赤いことに由来します。
- (10) 雀茶^{すずめちゃ}
雀の頭の色のような赤黒い茶色をいいます。雀の羽の色に由来する「雀色」は淡く赤みがかっているといわれることもありますが、それほど厳密に区別されているわけではありません。

<84円シート>

- (1) 紅梅色^{こうばい}

紅梅の花のような、紫みのある淡い紅色です。梅は「春告草^{はるつげぐさ}」といい、春の始まりを告げる花として古くから親しまれてきました。
- (2) 消炭色^{けしずみ}

消炭は、薪や炭などを途中で消して作る炭で、火が着きやすいため焚付に用いられます。墨色のように深い黒ではなく、黒に近い暗い灰色です。
- (3) 人参色^{にんじん}

人参の根のようなオレンジ色のこと。英語ではキャロットオレンジといいます。このオレンジ色は栄養素のカロテンの色で、カロテンという名前はキャロットに由来します。
- (4) 雪白^{せつぱく}

雪の白さを強調した色名で、正に真っ白ということです。白が無実・無罪を意味することから、雪白は潔白であるという意味で使われます。
- (5) 小豆色^{あずき}

小豆の実の色のような暗いくすんだ赤です。赤は古代から魔除け、厄除けの色とみなされ、そのため祝いの席などで赤飯や善哉などを食べる習慣が普及しました。
- (6) 燐竹色^{すすたけ}

囲炉裏や竈^{かまど}の煙などに燻^{いぶ}され続け、すすけた色を帯びた竹の色のような暗い茶褐色。江戸時代は茶色系や鼠色が好まれた時代であり、通人の好む衣装や帯色として流行しました。
- (7) 白群^{びやくぐん}

日本画の岩絵の具の色。アズライト（藍銅鉱）を砕いて作られる群青^{ぐんじょう}の粒子をさらに細かく砕いていくと、白っぽくなり、緑みを帯びた水色の白群となります。
- (8) 松葉色^{まつば}

松の葉の色のような濃い黄緑色をいいます。松は、古来から神聖な木、長寿や不変のシンボルとして珍重され、松葉色も生命力を表す「おめでたい色」とされました。
- (9) 朱色^{しゆ}

鳥居の色、朱肉の色など、少し黄みがかかった鮮やかな赤で、赤を代表する色の一つ。朱塗りの漆器の色のことはジャパニーズ・レッドと呼ばれます。
- (10) 濃卵^{こいたまご}

染め色の呼び名で、卵の黄身に由来する濃い黄色のことをいいます。卵黄の色は餌に含まれる色素により変化し、色の濃淡は栄養価には関係がありません。

3 その他

通信販売などの販売概要、郵趣のための記念押印サービスについては、弊社 Web サイトでお知らせします。

【注釈】

(注)「郵便局のネットショップ」への掲載は、2019年11月6日（水）を予定しています。

【お客さまのお問い合わせ先】

日本郵便株式会社

お客様サービス相談センター

0120-2328-86（フリーコール）

携帯電話から 0570-046-666（有料）

<受付時間 平日 8：00～21：00

土・日・休日 9：00～21：00>